





## 世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 20 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 解答は楷書で丁寧に記述すること。判読できない場合には誤答とみなすことがあるので、注意すること。
8. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
9. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
10. **解答用紙はすべて回収する。**持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. 試験時間は 60 分である。
12. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

〔 I 〕 次の文章をよく読み、問 1 ～ 6 に答えなさい。

獲得経済から生産経済に移行した人類は、灌漑農業を始めたことによって食料の安定的な生産を可能にした。それによって多くの人口を養うことが可能になり、それを統一的に支配する国家を生み出したほか、宗教と交易の中心となる都市が建てられた。

ティグリス川とユーフラテス川流域のメソポタミアには前 3000 年頃から都市文明が栄えていた。前 2 千年紀初めに北メソポタミアにおこった、セム語族系のアッシリア人によるアッシリア土国は小アジア方面との中継貿易によって栄えた。アッシュル＝バニパル王の治世下でその版図は最大となったが、滅亡後は 4 <sup>(1)</sup> 王国 が分立した。その後、前 6 世紀半ばになると、  によって アケメネス朝 <sup>(2)</sup> が建国された。第 3 代の ダレイオス 1 世 <sup>(3)</sup> は、西はエーゲ海から東はインダス川にいたる大帝國を建設し、知事(サトラップ)を各州においたほか、「王の目」「王の耳」と呼ばれた監察官を巡回させて中央集権化をはかった。また、首都のササから小アジアの  に至る約 2500 km もの「王の道」と呼ばれる国道をつくった。

マケドニアの王であったアレクサンドロス大王は東方遠征を行い、アケメネス朝を征服し、一時的に大帝國を築いた。その死後、彼が征服したアジアの領土はセレウコス朝に受け継がれた。しかし、アム川上流のギリシア人がセレウコス朝から独立して  を建国し、イラン人(ペルシア人)の族長アルサケスも パルティア <sup>(4)</sup> を建国した。パルティアはクテシフォンに都を定め、東西交易の利益を独占して栄えたが、アルダシール 1 世により倒され、ゾロアスター教を国教とするササン朝がおこった。ササン朝第 2 代の王であるシャープール 1 世は、東方では クシャーナ朝 <sup>(5)</sup> を滅ぼしてインダス川西岸まで領土を広げたほか、西方ではシリアに侵入し、ローマ皇帝  を捕虜とした。

またこのササン朝時代の銀器・ガラス器・毛織物・彩釉陶器の技術や様式は、イスラーム時代に引き継がれたほか、西方ではビザンツ帝国を経て地中海世界に、東方では飛鳥・奈良時代の日本にまで伝えられた。 所蔵の緯錦である獅子狩文錦はその代表的な例である。

- 問 1 空欄 A～E にあてはまる **最も適切な語句** を解答欄に記入しなさい。
- 問 2 下線部(1)の 4 王国の一つであるメディアが都とした都市はどこか。解答欄に記入しなさい。
- 問 3 下線部(2)のアケメネス朝の支配に対抗して、ギリシア人植民市が反乱をおこしたことを契機にペルシア戦争が勃発した。ギリシア側の勝利を確定させた前 479 年の戦いをなんと呼ぶか。解答欄に記入しなさい。
- 問 4 下線部(3)のダレイオス 1 世が刻んだとされるベヒストゥーン碑文を研究し、解読に貢献したイギリスの学者は誰か。解答欄に記入しなさい。
- 問 5 下線部(4)のパルティアは、建国の祖の名前にちなんで、中国では何と呼ばれていたか。解答欄に記入しなさい。
- 問 6 インドにおいて、下線部(5)クシャーナ朝とならんで有力であったサータヴァーハナ朝の仏僧で「空」の思想を確立した人物は誰か。解答欄に記入しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、問1～6に答えなさい。

7世紀初めにムハンマドによってイスラーム教が創始された後、正統カリフ時代、ウマイヤ朝を経て、750年にアッバース朝が成立した。

アッバース朝は、第5代カリフの  の治世に最盛期を迎えた。  
 が死去してからは、帝国内にいくつもの地方政権が存立する事態となり、カリフの主権がおよぶ範囲は次第に縮小した。こうした地方政権の存立は、イスラーム世界の政治的分裂を示す一方、イスラーム世界の周辺にいた諸民族へのイスラーム教の普及も意味した。

地方政権としてカスピ海南岸に成立したイラン人の**ブワイフ朝**は、946年にバグダードに入城し、アッバース朝カリフを傀儡化してイラクとイランを統治した。中央アジアの遊牧民であったトルコ人のイスラーム化も進んだ。 によって建国されたセルジューク朝は、1055年にブワイフ朝を追ってバグダードに入城した。 はアッバース朝カリフからスルタンの称号を与えられた。北アフリカでは、ベルベル人のイスラーム教への改宗が進んだ。彼らは、 を首都として、11世紀にムラービト朝、12世紀にムワッヒド朝を建国した。

中世には、イスラーム世界への異教徒の侵入も見られた。西方からは、キリスト教国による十字軍がイスラーム世界に侵入した。セルジューク朝のアナトリアやシリア方面への進出がビザンツ帝国を圧迫し、十字軍の一因となった。アイユーブ朝の建国者サラディン(サラーフ=アッディーン)は、イギリス国王 らが率いた第3回十字軍と激しい攻防を重ねたことで知られる。東方からは、フラグが率いるモンゴル軍が侵入し、1258年にアッバース朝を滅ぼした。フラグはイランとイラクを領有して、イル=ハン国を建てた。建国当初のイル=ハン国はシリア地方への進出を図ったが、エジプトの**マムルーク朝**によって阻まれた。その後、イル=ハン国は第7代君主 の時代に、圧倒的多数を占める治下のムスリムへの配慮からイスラーム教を国教と定めた。

- 問 1 文中の空欄 A～E にあてはまる**最も適切な語句**を解答欄に記入しなさい。
- 問 2 下線部(1)のブワイフ朝は、軍人や官僚に対して俸給の代わりに分与地の徴税権を与える制度を採用した。この制度は何と呼ばれているか。解答欄に記入しなさい。
- 問 3 下線部(2)のトルコ人が 10 世紀に建てた王朝は、サーマーン朝を滅ぼして東・西トルキスタンに領域を広めた。この王朝名を解答欄に記入しなさい。
- 問 4 下線部(3)のムラービト朝はサハラ砂漠の南へ遠征し、サハラ縦断交易で栄えていた王国を破り、内陸アフリカにイスラーム教を広める道を開いた。ムラービト朝に破られたこの王国名を解答欄に記入しなさい。
- 問 5 下線部(4)のムワッヒド朝に法官や宮廷医として仕え、アリストテレス研究によって中世ヨーロッパのスコラ学に多大な影響を与えた人物は誰か。解答欄に記入しなさい。
- 問 6 フラグ率いるモンゴル軍をシリア地方で撃退した下線部(5)の мамルーク朝の第 5 代スルタンは誰か。解答欄に記入しなさい。

〔Ⅲ〕 次の文章A～Jをよく読み、下線部(1)～(4)のうち、**適切でないもの**を一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A 中国では、戦国の七雄と呼ばれる7つの強国が並び立ち、互いに同盟を結びつつ対立した。東北地方南部の燕は現在の北京にあたる臨淄を都とし、<sup>(1)</sup> 鉱物資源を豊かに持ち、齊や趙と接していた。中国南部では楚が長江流域に広大な領土を領有し、<sup>(2)</sup> 稲作を基盤としていた。魏と韓は山西省南部などを領有し、<sup>(3)</sup> 西方の秦と隣接していた。西方の秦に対抗して他の6国が蘇秦の合従策を展開した<sup>(4)</sup> もの、最終的には秦が中国を統一した。

B 漢代において、当初は法家や道家の思想が力を持った。後に董仲舒の提案によって<sup>(1)</sup> 儒学が官学とされた。儒学の主要な経典として五経が定められ、<sup>(2)</sup> 後漢の時代になると鄭玄らによって<sup>(3)</sup> 訓詁学が発展した。それまでの書物は主に竹簡に書かれていたが、<sup>(4)</sup> 製紙技術が改良されて紙が普及し、文字は篆書に統一され、辞書も作られた。

C 魏晋南北朝の時代には、多様な思想・文化が花開いた。鳩摩羅什は西域から<sup>(1)</sup> やってきて華北で布教や仏典の翻訳を行った。その結果、<sup>(2)</sup> 華北では貴族の教養として、江南では庶民にまで仏教が広まった。また、仏教の普及に刺激され、古くからの民間信仰と神仙思想に道家の説を取り入れた<sup>(3)</sup> 道教が成立した。道士<sup>(4)</sup> の寇謙之は教団をつくり、北魏の太武帝に信任され、仏教と対抗して勢力をのばした。

D 10世紀の初め、節度使の朱全忠は唐を滅ぼし、<sup>(1)</sup> 汴州(開封)を都として後梁を建国した。以降、50余年間に華北では有力節度使の建てた5つの王朝である<sup>(2)</sup> 後梁・後唐・後魏・後漢・後周が交替した。後周の将軍であった趙匡胤<sup>(3)</sup> は、960年に宋(北宋)を建国し文治主義をとった。また、宋においては<sup>(4)</sup> 科挙が官吏登用法の中心として整備され、殿試も導入された。

E 宋では商業に対する規制が緩み、都市の中で商業活動が活発化しただけでなく、城壁の外や交通の要地に草市・鎮などと呼ばれる商業の中心地が栄えた。<sup>(1)</sup> また、全国的な物資の流通が盛んとなり、商品経済は大規模化し、行(商人)・作(手工業者)などの同業組合もうまれ、米・絹などを扱う大商人が活躍した。<sup>(2)</sup> 貨幣経済も発展し、銅銭が大量に発行されたほか、手形として発生した交鈔が紙幣として用いられるようになった。<sup>(3)</sup> 貨幣経済の進展の中で富裕層は土地を買い集めて地主となり、佃戸に耕作させた。富裕層と佃戸の土地の貸借関係は対等なものから隷属的なものまで多様であった。<sup>(4)</sup>

F 1206年、オノン川上流で一族・功臣を集めたクリルタイで、テムジン<sup>(1)</sup>はチンギス=ハンの称号をうけた。第3子のモンケ=ハンは、チンギス=ハンの征服事業を継承し、三方から金を攻め、南宋と共同で金を滅ぼした。モンゴル帝国が成立すると13~14世紀のユーラシア大陸の大部分には政治的秩序がもたらされ、東西交流も発展し、「タタールの平和」と呼ばれた。<sup>(3)</sup> 十字軍の遠征で劣勢にあった西ヨーロッパは、イスラーム教徒のホラズム=シャー朝を倒したモンゴル帝国に関心を持っていたが、ハンガリーの首都であったペストにまで及んだバトゥのヨーロッパ遠征はキリスト教世界に大きな不安と脅威を与えた。<sup>(4)</sup>

G 教皇インノケンティウス4世は、モンゴルの再度の侵入を防ぎ、彼らをキリスト教に改宗する目的でドミニコ修道会のプラノ=カルピニを使節としてモンゴルに送った。<sup>(1)</sup> フランス王ルイ9世もまた、フランシスコ修道会のルブルックをモンゴルに送った。<sup>(2)</sup> 十字軍の遠征をきっかけに発展を遂げたイタリア商人は、中央アジアの東西貿易路を行き来した。<sup>(3)</sup> イタリア商人として最初にこの商業路を開拓したヴェネツィアの商人のニコロ=ポーロとマッフェオ=ポーロの兄弟と、ニコロの息子マルコ=ポーロは、元の大都を訪問し、フビライ=ハンに仕えた。<sup>(4)</sup>

II 14世紀になると中国では政権内部の内紛が続き、自然災害や飢饉が多発して、元朝にも陰りが見え始めた。貴族の贅沢な宮廷生活やチベット仏教への熱狂的信仰は元の国家財政を逼迫した。<sup>(1)</sup>それを補おうとする経済的施策と、自然災害や飢饉は民衆の生活を次第に苦しめ、暴動のきっかけとなった。宋代から始まる弥勒仏下生を中心とする仏教系結社である白蓮教を主体とした紅巾の乱<sup>(2)</sup>がもっとも大きな反乱であった。紅巾軍の武将であった朱元璋は、儒学の素養を持つ知識人の協力をえながら江南地方の穀倉地帯を押さえ、その経済力で周辺の群雄を勢力下においた。<sup>(3)</sup>1368年、朱元璋は西安を都として皇帝となり、元号を洪武として明を建国した。<sup>(4)</sup>その年、大都に残る元朝に軍を派遣して攻め、モンゴル高原へと追いやった。

I 1333年に日本では鎌倉幕府が倒された。その後、南北朝の争乱期が始まり、京都に室町幕府が成立した。<sup>(1)</sup>この争乱のさなかで統制はとれず、西日本の海賊集団が、海禁政策に不満を持つ中国人を主力として、朝鮮半島南岸や中国江南の湾岸を襲った。<sup>(2)</sup>明は日本の室町幕府に倭寇の取り締まりを要求し、1402年に明は第3代将軍足利義満に国書を与え、「日本国王」に封じた。<sup>(3)</sup>これをうけて義満は1404年に遣明船を送り、勘合貿易を開始した。<sup>(4)</sup>この結果として倭寇の活動は減少した。

J 明代では洪武帝は朱子学を官学として科举制の整備をめざした。永楽帝は即位直後に各地の学者を動員して、『永楽大典』を編纂させた。<sup>(1)</sup><sup>(2)</sup>『永楽大典』は科举での経典解釈の正しい規準を示すことを目的とした。<sup>(3)</sup>さらに永楽帝は、従来の朱子学の学説を集大成した『四書大全』『五経大全』『性理大全』も相次いで編纂させた。<sup>(4)</sup>



〔IV〕 次の文章をよく読み、下線部(1)～(10)に関する問1～10に答えなさい。

絶対王政の国であったフランスで旧制度(アンシャン＝レジーム)を覆す革命が起こった。フランス革命は、王権に対する貴族の反抗が発端となったが、有産市民(ブルジョワ)層が旧制度を廃棄して、その政治的発言力を確立する結果となった。農民・都市民衆は旧制度の廃棄に重要な役割を果たしつつ、有産市民層が推進した資本主義経済にも反対した。フランス革命はこのように、貴族・有産市民・農民・都市民衆という四つの社会層による革命が絡み合い、複雑な経過をたどった。1789年5月、ヴェルサイユで三部会(<sup>(1)</sup>全国三部会)が招集されたが、議決方法について特権身分と第三身分が対立した。6月、第三身分の議員は、自ら国民を代表する国民議会であると宣言し、憲法制定までは解散しないことを誓った。憲法の起草をはじめた国民議会を国王や保守派の貴族は武力で弾圧しようとした。時を同じくして、パリの民衆は圧制の象徴とされたバスティーユ牢獄を7月14日に攻撃した。<sup>(2)</sup>国民議会は8月に封建的特権の廃止を決定、ラ＝ファイエットらの起草した人権宣言を採択した。

<sup>(3)</sup>立法議会で革命の進行を望まない立憲君主派と大商人の利害を代表して共和政を主張するジロンド派が対立する中、国内外で反革命の動きが活発になった。1792年春に政権を握ったジロンド派が、革命に敵対的なオーストリアに宣戦を布告した。オーストリア・プロイセン連合軍がフランス国内に侵入すると、パリ民衆や義勇軍は1792年8月に国王のいたテュイルリー宮殿を襲撃した。9月には国民公会が成立し、王政廃止、共和政の樹立が宣言された。国民公会では、急進共和主義のジャコバン派が力を増し、レイ16世は1793年1月に処刑された。<sup>(4)</sup>

ジャコバン派の没落後、社会不安は続く中、軍事指導者として頭角をあらわしたナポレオン＝ボナパルトが総裁政府を倒し、統領政府をたて、第一統領として<sup>(6)</sup>事実上の独裁権を握った。<sup>(7)</sup>

ヨーロッパ大陸をほとんど支配下に置く間、ナポレオンは大陸封鎖令を発して諸国にイギリスとの通商を禁じようとした。ヨーロッパにおけるナポレオンの勢力が絶頂に達していく中、諸国で外国支配に反対し、民族意識が成長し抵抗が起きた。その背景には「国民国家」の理念の広がりがあった。<sup>(8)</sup>

その後、ナポレオンはロシアが大陸封鎖令を無視したことから、1812年に大軍を率いてロシアに遠征したが失敗に終わった。それを契機に諸国は解放戦争に立ち上がった。1813年にナポレオンは破られたものの、一度パリに戻り1815年に皇帝へ復位したが、ワーテルローの戦いで大敗した。

問 1 下線部(1)「三部会」についての記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ルイ 16 世は、特権身分への課税をはじめとした財政改革を試みた。しかし、聖職者、貴族はこれに反発し、特権身分の立場から国王の絶対権を制限しようとして 150 年以上開かれていなかった三部会の招集を要求した。
- ② 三部会の第一身分は貴族、第二身分が聖職者、第三身分が平民で、人口の 9 割ほどが第三身分であった。第三身分でも、農民は税負担で苦しい生活を送る一方、有産市民層は富や実力を向上させながらも実力に応じた待遇を受けず不満を抱いていた。
- ③ 三部会の第一身分である貴族は広大な土地や重要官職を掌握していたが、官職を買収して世襲した新貴族はサンキュロットと呼ばれていた。
- ④ 三部会を構成する一身分である第三身分の権利を主張するべく、啓蒙思想が広がる中、1789 年初めにブリッソが『第三身分とは何か』という小冊子を発表した。

問 2 下線部(2)「バスティーユ牢獄」についての記述として**最も適切なもの**を次の

- ①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。
- ① パンの値上がりに苦しんでいたパリの民衆は反発し、圧制の象徴とされたパリのバスティーユ牢獄の無血解放に成功し、囚人7人を解放した。
- ② バスティーユ牢獄は、14世紀にたてられた城塞で17世紀から監獄として使われていた。投獄されるのは平民のみであったが、経費節減から取り壊しが決定されていた。
- ③ バスティーユ事件の政治的影響力は大きく、各都市でも新しい自治体と民兵が組織される中、自衛した農民たちが領主の館を襲撃するなど「大恐怖」が全国的に広がり、封建的特権の廃止がラマルチーヌらによって宣言された。
- ④ バスティーユ事件の後、国王は国民衛兵創設や新市長バイイ就任などパリ市が独自に行った改革を認めた。

問 3 下線部(3)「人権宣言」についての記述として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 成人男女の普通選挙制、無記名投票、一年任期の議会、議員の財産資格の廃止、歳費の支給、10年ごとの国勢調査によって調整される選挙区を基本原則として確認している。
- ② 正式には「人間及び市民の権利の宣言」というこの宣言は、人間の自由・平等の権利、自由・財産の安全及び圧政に対する抵抗の権利、国民主権、法の支配、言論・出版の自由、私有財産の不可侵など近代市民社会の基本原則を確認している。
- ③ 「人権宣言」において、所有権は自由と安全とならぶ「人間の自然で時効により消滅することのない権利」と定められた。
- ④ 「人権宣言」ではあらゆる主権の原理(起源・根源)は、本質的に国民のうちには存在する。いかなる団体、いかなる個人も、国民から明白に由来するものではない権威を行使することはできないとしている。

問 4 下線部(4)「王政の廃止、共和政の樹立」についての記述として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 1792年普通選挙による国民公会が成立し、王政廃止と共和政(第一共和政)の樹立を宣言した。国民公会において立憲君主派は姿を消し、ジロンド派と山岳派が対立していた。
- ② ヴェルサイユ行進の後、国王一家はパリ市内のテュイルリー宮殿に居住したが、山岳派がサンキュロットと義勇兵などに呼びかけ宮殿を襲撃し(8月10日事件)、国王は捕らえられ、タンブル塔に幽閉され、国民公会は王権停止を宣言した。
- ③ 第一共和政は、ナポレオンの即位までの期間におけるフランス初の共和政治体制であるが、穏健な中間グループである平原派が、ジロンド派と山岳派の間で揺れ動き情勢を左右した。
- ④ 第一共和政樹立宣言直前のヴァルミーでのフランス軍の勝利に対して、ゲーテは、この日、この場所から世界史の新しい時代が始まるとの旨を述べた。

問 5 下線部(5)「ルイ 16 世」についての記述として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 1793年、国民公会における裁判で「国民への敵対」を問われ、賛成 387 票、反対 334 票の結果を受けてギロチン(断頭台)で処刑された。
- ② ルイ 16 世処刑に使われたギロチンは、国民議会議員ギヨタンが、迅速かつ無痛の死刑方法の採用という人道的立場から、また万人同一の方法で行われることは、平等の精神にも合致すると考え考案されたものである。
- ③ ルイ 16 世時代のフランスを支えた農業技術の革新も限界に達した。当時のフランスでは穀物生産の伸び悩み、人口増加による穀物価格の上昇、慢性的栄養失調の状態に陥る中、ペストの大流行により人口の三分の一が死亡した。
- ④ 1791年宮廷と議会の間にあつたミラボーが病死し、革命の急進化に不安をもったルイ 16 世とその一家は王妃マリ＝アントワネットの母国オーストリアへの亡命を図ったが、ヴァレンヌで逃亡が発覚して国王一家はパリに連れ戻された。

問 6 下線部(6)「ナポレオン＝ボナパルト」についての記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ロベスピエールが失脚した際、一時拘束された。しかしまもなく、釈放され、イタリア遠征などを成功させた。
- ② ナポレオンは、ブリュメール 18 日のクーデタで総裁政府を倒し、統領政府を樹立し、新憲法が国民投票で賛成を得て、クーデタが承認され、任期 10 年の第一統領となり、独裁権を握った後、皇帝に即位した。
- ③ ナポレオンは革命以来フランス政府と関係が悪化していた教皇に対しても宗教協約を結び、フランスにカトリック復活を認め和解した。また、フランス銀行の設立、税制改革、教育制度、国家への貢献を表彰するレジオン＝ドヌール勲章を定め、フランス民法典であるナポレオン法典を公布した。
- ④ 皇帝に即位したナポレオンは、労働者、資本家、農民の三勢力の均衡を絶えず考慮しなければならず、また元老院や立法院に質問権を与えたり、労働者の団結権を認めたり、集会法や出版法を緩和する自由帝政を実践していた。

問 7 下線部(7)「統領政府」についての記述として**適切ではないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 統領政府は任期 10 年の統領 3 人が行政権を持ち、立法府は 4 院制をとる共和主義体制であったが、ナポレオンが第一統領として事実上独裁権を握りフランス革命は終了した。
- ② ナポレオンはオーストリアとの戦争を再開し、アルプスを越えてイタリアに入り、マレンゴの戦いでオーストリア軍を破った。
- ③ 総裁政府とは 1795 年憲法(共和国第 3 年憲法)に基づき成立した、5 人の総裁が権限を分担した政府であった。
- ④ 終身統領であったナポレオンは 1804 年に皇帝の地位に就いた。ナポレオンはますます大陸制覇へと踏み出し、その結果スペイン王国、ワルシャワ大公国、イタリア王国、ナポリ王国、ポルトガル王国を服属させた。

問 8 下線部(8)「国民国家」についての記述として**適切ではないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ナポレオン支配下でシュタインやハルデンベルクらが指導した改革が行われるプロイセンでは、戦争で敗北したドイツ人に対して、哲学者フィヒテが「ドイツ国民に告ぐ」という講演を行い、ドイツ人の愛国的心情を鼓舞した。
- ② 国民国家という理念の下リシュリュー創設の学術団体としてフランス学士院が創立され、『アカデミー＝フランセーズ国語辞典』の初版がナポレオンにより出版され、改訂が続けられている。
- ③ スペインではブルボン家が追放されたあと、ナポレオンの兄が王となりフランス支配下に置かれる中、首都マドリードで市民のフランスに対する反乱が起こり、フランス軍に鎮圧されながらも、地方に広がった「半島戦争」はナポレオンを悩ませた。
- ④ それまでの身分・職業・地域などに分けられていた人々を国家と直接結びつけ、国民意識をもった平等な市民が国家を構成するという「国民国家」の理念は、フランス以外の国々にも広まると共に、フランス革命の成果を受け継いだナポレオンによる支配に対する抵抗の根拠となった。

問 9 下線部(9)「ロシア」についての記述として適切ではないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ナポレオンが発した大陸封鎖令によって、大陸諸国とイギリスの貿易や通信が全面的に禁止されたが、イギリスに穀物を輸出し、イギリスから生活必需品などを輸入していたロシアにとっては、プロイセン、オーストリアと同様国民経済を破壊するほどの打撃をあたえるものであった。
- ② ロシアのアレクサンドル1世はナポレオンの大陸支配を警戒しながら、1812年に大陸封鎖を破り、イギリスと貿易を再開したことで、ナポレオンは大軍を率いてロシアに侵入しモスクワを占領したが、ロシア軍の焦土作戦が功を奏して、ナポレオンはモスクワからの撤退を決意した。
- ③ ナポレオンがエルバ島に流刑されたあと、1814年9月から15年6月にかけて、フランス革命とナポレオンによる混乱を終わらせ新しい国際秩序を確立するために開催されたウィーン会議では、ロシアのアレクサンドル一世が司会を務めた。
- ④ 1815年に成立した四国同盟は、ウィーン体制維持の機能を持ち、ナポレオン打倒の中心となったイギリス、オーストリア、プロイセンとともにロシアも参加し、革命の防止、紛争終結を図った。



問10 下線部⑩「1815年に皇帝へ復位したが、ワーテルローの戦いで大敗した」  
についての記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ナポレオンの失脚時、ブルボン朝の王政を復活させたルイ16世の弟は、フランスに戻り、ルイ17世として即位したが、その反動的な態度で国民の間に多くの敵を作り出した。
- ② アミアンを拠点に再び皇帝の地位についたナポレオンは軍隊を再編制し、戦争に備えた。それに対し、諸国は同盟を結んでナポレオンに対決した。
- ③ ナポレオンは、1815年ベルギーのブリュッセルの南、ワーテルローでイギリスのブリュッヘル、プロイセンのウェリントンと戦って敗れ、セントヘレナ島にイギリスによって送られ、1821年にこの世を去った。
- ④ ナポレオンの死後人々はその専制、失敗を忘れ、時を経てナポレオン伝説が生まれ、「よき皇帝」「革命の真の愛国者」に姿を変えた。1840年、イギリスがナポレオンの遺体をパリに帰すことを認めた。

〔V〕 次の文章A～Jをよく読み、下線部(1)～(4)のうち、**適切でないもの**を一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A 1914年6月、オーストリア帝位継承者であるフランツ＝フェルディナント大公夫妻がサラエヴォで暗殺されたことに端を発する第一次世界大戦は、当初の短期決戦という各国の見込みに著しく反して、長期にわたることとなった。1915年4月のイーブルの戦いでドイツ軍は毒ガスを使用し、<sup>(1)</sup>1916年6月からのソンムの戦いでは戦争で初めてイギリス軍の戦車が登場した。<sup>(2)</sup>その後、1917年2月、ドイツ軍部独裁政府は、無制限潜水艦作戦の開始を宣言した。<sup>(3)</sup>この作戦の開始後、アメリカ合衆国の客船ルシタニア号が撃沈されたことを受<sup>(4)</sup>けて、アメリカ大統領ウィルソンはドイツに宣戦布告を行った。

B 1918年1月、ウィルソンは秘密外交の廃止、海洋の自由、民族自決などを<sup>(1)</sup>含めた十四カ条の平和原則を発表し、ロシアではソヴィエト政府がトロツキー<sup>(2)</sup>を全権として、3月、ドイツなどとの単独講和のためにブレスト＝リトフスク条約を締結した。ドイツは東部戦線から西部戦線へと兵力を移して戦い続けた<sup>(3)</sup>が、海軍の兵士がキール軍港で反乱を起こし、そのため進撃を停止した。また、ブルガリア、オスマン帝国、オーストリアはそれぞれ連合国と休戦条約を<sup>(4)</sup>結び、降伏した。

C 1919年1月、パリで講和会議が開催され、講和の枠組みはアメリカ大統領<sup>(1)</sup>ウィルソンの十四カ条とされ、米・露・英・仏・イタリアの五大国が全般的な<sup>(2)</sup>主導権を握った。しかし、各国の関心や要求の事情から、消極的な参加や会議からの一時的離脱という国もあったために、結局は米のウィルソン、英のロイド<sup>(3)</sup>＝ジョージ、仏のクレマンソーの三首脳間の協議が決定的なものとなった。しかし、フランスが自国の安全保障問題、イギリスが戦前の地位の回復、アメリカは十四カ条遵守と<sup>(4)</sup>いったように、関心や目的が異なっていた。

D アメリカは第一次世界大戦中、連合国に物資・借款(戦債)を提供し大きな利益をあげ、戦後は債務国から債権国に転じ国際金融市場の中心の一つとなった。<sup>(1)</sup>  
国内的には、大戦中に多くの女性が軍需生産に参加し、1920年に女性参政権が認められ、民主主義の基礎が拡大された。<sup>(2)</sup>  
1920年代のアメリカ経済は「永遠の繁栄」を謳歌し、自動車や家庭電化製品が普及した。大量生産・大量消費社会が形成されるなかで、ラジオ・映画・テレビなどの大衆娯楽が発展した。<sup>(3)</sup>  
た。<sup>(4)</sup>

E アメリカではウィルソンのあと、1921年に同じ共和党のハーディングが大統領となった。<sup>(1)</sup>  
共和党は対外的義務の負担と外交の自由の制限を嫌って国際連盟加盟に反対したが、軍事力によらない国際経済の拡大によって世界の安定をもたらすことをめざした。<sup>(2)</sup>  
1921年11月から開催されたワシントン軍縮会議では米・英・仏・日・イタリアなど9カ国が参加し、それぞれの主力艦の保有トン数の上限と保有比率が定められた。<sup>(3)</sup>  
このさいに太平洋諸島の現状維持を決めた米・英・仏・日の四カ国条約も締結され、1902年から続いた日英同盟は解消された。<sup>(4)</sup>

F 1929年10月、ニューヨーク株式市場(ウォール街)で株価が暴落した。そのことがアメリカに空前の恐慌をもたらし、工業生産の急落、企業の倒産、商業・貿易の不振が進み、労働者の4人に一人が職を失った。<sup>(1)</sup>  
世界経済・金融の中心であったアメリカの恐慌は全世界に広がり、アメリカ資本が引き上げられたヨーロッパ諸国も恐慌にみまわれた。<sup>(2)</sup>  
アメリカ大統領フーヴァーは1931年、ドイツの金融恐慌からの回復を目的として賠償・戦債支払いの1年間停止(フーヴァー＝モラトリアム)を宣言した。<sup>(3)</sup>  
恐慌は資本主義諸国の経済をゆるがしたため、イギリス、フランスは金本位制を堅持した。<sup>(4)</sup>

G 共和党のフーヴァー大統領のあとで1932年の選挙で選ばれた民主党のフランクリン＝ローズヴェルト大統領は、資本主義の原理の「自由放任」に代えて、<sup>(1)</sup>  
国家が経済に積極的に介入する、ニューディールと呼ばれる経済復興政策をおこなった。<sup>(2)</sup>  
この政策の重要立法としては、農業生産を調整し、農産物の価格を引き上げて農民の生活を安定させる農業調整法(A A A)、カルテルによる工業製品価格の統一を認めず、企業間の公正な競争を促す、全国産業復興法(N I R A)があった。<sup>(3)</sup>  
全国産業復興法が1935年に連邦裁判所で違憲とされたのち、<sup>(4)</sup>  
その中の労働者の権利に関する部分を上院議員のワグナーの提案で立法化したものがワグナー法であり、労働者の団結権・団体交渉権を認めることになった。

H 1933年にローズヴェルト大統領はソヴィエト連邦を承認した。日本やナチス＝ドイツの行動にアメリカは批判的であったものの、第二次世界大戦までは<sup>(1)</sup>  
政治的には国際的関与を徹底しておこなわず中立を保ち、<sup>(2)</sup>  
1935年には交戦国への武器輸出禁止などを決めた中立法を制定した。<sup>(3)</sup>  
ところが、1932年に日本軍が中国の満州の主要な地域を占領し、清朝最後の皇帝溥儀に満州国建国を宣言させたさいには、<sup>(4)</sup>  
アメリカは満州国不承認を声明し、中国はアメリカに日本の行為を訴え、それを受けてアメリカはリットン調査団を派遣し、調査した。

I アメリカは中立法のためにイタリアのエチオピア侵略やスペイン内戦に対しても中立を守っていた。1939年にヨーロッパで第二次世界大戦が始まると<sup>(1)</sup>  
アメリカではドイツを最大の脅威ととらえ、イギリス・フランスへの武器輸出解禁を支持するような世論が高まり、中立法は廃止された。<sup>(2)</sup>  
さらに、フランスが降伏して1940年9月に日独伊三国同盟が成立したことにより、<sup>(3)</sup>  
ローズヴェルト大統領は三選後の1941年3月、武器貸与法を成立させた。<sup>(4)</sup>  
アメリカはイギリス・中国・ソ連への物資援助をおこなっていたが、参戦には踏み切らなかった。  
その後、ローズヴェルトは1941年、イギリスの首相チャーチルと大西洋上の軍艦で会談をおこなって大西洋憲章を発表し、民主主義国の共通の戦争目的を明らかにした。

J 1969年に共和党のニクソン大統領は、ベトナム戦争の解決とアメリカの主導権の維持をその課題としていた。しかし、外交をおこなうさいの秘密主義が不信を呼び、オイル=ショック(石油危機)に由来する経済不振、さらにウォーターゲート事件<sup>(1)</sup>が<sup>(1)</sup>おこり、1974年にニクソンは大統領を辞任することになった。そのため、ニクソンの後継には副大統領からフォードが昇格した。1977年<sup>(2)</sup>に大統領になった民主党のカーターはワシントンの中央政界の腐敗とは無縁<sup>(3)</sup>であることをアピールし、彼の時代には先進国首脳会議(サミット)が発足された。カーターはソ連にたいして「人権外交」を唱えて道義的な優位性を保とうと<sup>(4)</sup>した。